

平成29年3月1日
大阪府立寝屋川高等学校
准校長 大森孝志

春の息吹を感じるこの3月の良き日に、大阪府立寝屋川高等学校 定時制の課程 第65回 卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、公私ご多用にもかかわらず 学校協議会、本校PTA、同窓会北水会、旧職員のご来賓の方々、並びに保護者の皆様にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。入学から今日のこの日までよく頑張り、晴れて卒業式を迎えました。

皆さんの中には、仕事の後で疲れながらも頑張って登校していた人、家庭内で自分の役割分担を果たしてから学校に来ていた人、また、色々な理由で学校から一度は離れたけど、再び戻ってきて頑張った人など、様々な人がいます。この日にたどり着くまでには、それぞれに、苦しみ、悩み、不安があったと思います。そのようなしんどさをかかえながらも、今日のこの時を迎えました。本当に価値のある卒業です。

人は誰もが、苦しみ、悩みを抱えながら生きています。すべての面で何の心配もない人は、ほとんどいないのではないのでしょうか。そして、その苦しさが大きいゆえに勉強、仕事に打ち込めない時期もあります。しかし、ずっとそのままではいけません。しんどさ、解決されていない問題を抱えながら、勉強や、仕事を続けていかなければなりません。その意味で皆さんは、今日の卒業まで、本当によく頑張りぬきました。

高校を卒業するという事は、立派で、価値のあることです。世間の人から認めてもらえることです。高校を卒業するためには、学校に来て、授業に出て、試験勉強をして点数を取る。レポートを仕上げる等のことを、きっちりこなさなければなりません。そのことを人々は知っています。それゆえ、高校を卒業した者は人から認められるのです。みなさんは高卒者として胸を張って歩いて行ってください。

また、今日の卒業までには、いろいろな人の支えがあったのではないのでしょうか。ご家族の方々、先生方、友人たちがどこかで、何らかの形で助けてくれていたと思います。どうか、その方々に対する感謝の気持ちを、忘れないでください。

皆さんはこれから、社会の一員として、自分が希望する進路を実現していくわけですが、高校卒業までたどり着いたことを、自分の自信にして、自分はやればできる人間であると信じてください。

社会に出ていこうとしている皆さんに、私が日ごろから大切に思っていることを、もう一度繰り返し申し上げます。

1つ、自分から挨拶ができる人になるということ。

2つ、何かをするときには一生懸命にやるということ。授業や明月祭や体育祭で、一生懸命に打ち込んだ人は、楽しかったと思います。逆に一生懸命にならないと楽しめません。「どうせやるなら、一生

懸命やるほうが楽しい。」このことを忘れないでいてください。

3つ、優しい人になるということ。辛いことを経験した人ほど、その苦しさが分かるので、同じ境遇にいる人に対して優しくなれます。ここにいる皆さんは、それぞれがしんどい道を通ってきました、その分、人のしんどさがわかり、優しい人になれます。これから出ていく社会は厳しい社会です。そのような厳しさの中にあっても、優しい気持ちを失わず、自分の周りに、しんどそうな人がいたら声をかけてあげてください。

今日の卒業は皆さんの頑張り、努力とご家族や周りの方々の暖かい支えと、先生方が皆さんのことを思う思いが一つに溶け合って形作られたものです。美しい卒業です。先ほど卒業証書をお渡ししましたが、一人ひとりが美しかったです。

皆さんがこれからも活躍され、日々幸せを感じることが出来ますように、心からお祈りいたしまして、式辞といたします。